

砂名の ベトナムに乾杯

第3回 向こうからやって来たご縁

初の海外視察。どこに行くべきか？
最初の一步で、私は分からなくなっていた。

しかし、「下手な考え、休みに似たり」である。当時、主宰していた「女性起業家のためのコミュニティ【Grow up!】」で、ビジネスセミナーの講師を務めていただいた、事業風水の先生に相談してみた。

「事業風水」。世の中には、こんな不思議な職業があるのだ。しかし元「都」の奈良で生まれ育ち、高校から、これまた元「都」の京都で10年間暮らした。日々、暮らしのそこそこに、1300年以上も前の人々が、天空の流れや動きを読み解き、人間の叡智とともに政(まつりごと)を行っていたという思想や歴史を、肌で感じている。今でもその思想に基づく儀式は、皇居の中で行われている。

京都の有名な神社にもご神託を授けに行かれるというその事業風水の先生に、診てもらおうことにした。

私が視察先として選んだのは、ニューヨーク、パリ、香港、シンガポールだった。

「ニューヨーク、パリは、まだ早い」

「香港、シンガポールは…うーん、違うな…」

しばらく沈黙が続く。

「じゃあ、どこが良いんですか？」

なおも沈黙が続き、やおらあって、

「ベトナム!!」

先生は、そう力強く、口にされた。

「ベトナム〜?!」



視察に行く前のホーチミンのイメージはこんな感じだった。完璧に南国のリゾート調。@ Thao Dien Dist.2【The Deck Saigon】

考えたこともなかった。だいたい、ベトナムって…どんな国なのだ？

ベトナム戦争、社会主義国、ホー・チ・ミン、ボートピープル、ベトちゃんドクちゃん、ミュージカル「ミス・サイゴン」しか浮かばない。ベトナムの第一ブームに、一人旅の好きな女性に薦められ、将来、旅行したいと考えていた。しかし実際は「いつか」で終わった。

ダナン出身のトラン・アン・ユン監督の「青いパイアの香り」「夏至」などの映画作品に、フランスのエスプリ(ベトナムはかつてフランス領。ユン監督はフランス留学していた)と、南国のアンニュイな時の流れとが緩なす世界観に、謎めいた魅力を感じていた。

しかし文化的に憧れることと、そこに住んでビジネスをするのとは全く別次元の話だ。

「しかもホーチミンだね」、さらなる先生のダメ押しに、返す言葉もなく帰ってきた。

それから一週間後。知人の出版記念パーティーで、たまたま同じテーブルだった女性に、「今度、ホーチミンに行くんだけ

れど…」と話してみたところ。「ウチの会社、ベトナムで日本からの進出支援をやって19年になります」と名刺を渡された。

数日後、その会社の社長のセミナーに参加した。会社は五反田の、私の事務所から歩いて3分ぐらいであることを知った。

ご縁だと思った。

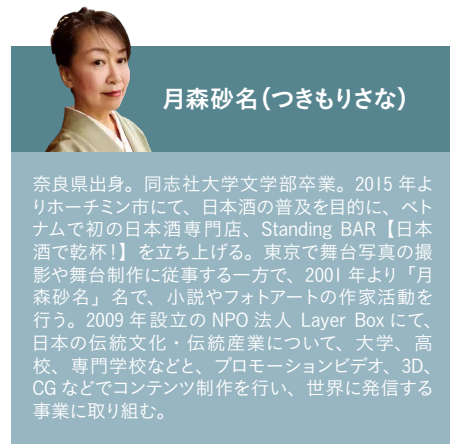
直後に、「こんな助成金があるんだけど」と申請書を渡された。それが地域力活用市場獲得等支援事業共同海外現地進出支援事業だった。締切りまで一か月もない。慌てて事業計画書を書き、10社協働に参画してくれる企業・蔵元を募った。

そんな思いだけが熱い、付刃的な作業だったが、二か月後。

見事に採択された。

ひとえに、参画企業様のご理解と、ご実績のおかげと、感謝の念に堪えない。

さて、そんなこんなで、ホーチミンに視察に行くことになったのだが…。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学文学部卒業。2015年よりホーチミン市にて、日本酒の普及を目的に、ベトナムで初の日本酒専門店、Standing BAR【日本酒で乾杯!】を立ち上げる。東京で舞台写真の撮影や舞台制作に従事する一方で、2001年より「月森砂名」名で、小説やフォトアートの作家活動を行う。2009年設立のNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化・伝統産業について、大学、高校、専門学校などと、プロモーションビデオ、3D、CGなどでコンテンツ制作を行い、世界に発信する事業に取り組む。